令和４年９月８日
教育委員会９月定例会
報告事項
学校教育部支援教育課

◎日本語指導が必要な児童生徒への支援の状況について

令和５年度から設置を予定している「(仮称) 支援教育ステーション」に関して、日本語指導が必要な児童生徒への支援の状況をご報告いたします。

１　市立学校における日本語指導等について

日本語の理解が十分でない児童生徒については、在籍校と保護者からの依頼を受け、国際教育コーディネーターによるアセスメントを経て、日本語指導員や学校生活適応支援員を学校に派遣しています。

（１）学校生活適応支援について

ステージ１・２の児童生徒を対象に、学校生活のスタートにおける支援を行うため、母語対応のできる学校生活適応支援員を学校に派遣しています。原則、３時間×12 日間の支援です。

なお、母語対応ができない場合は、英語や、やさしい日本語を用いての支援となります。

（２）日本語指導について

市立学校に在籍し、アセスメント結果が、ステージ１～４であり、本人・保護者が日本語指導を希望した児童生徒を対象に、日本語指導員を学校に派遣しています。原則、週１回１時間×２年間までとし、ステージ５に達する力をつけることを目指しています。

【参考】ＪＳＬ評価参照枠〈全体〉

	ステージ	学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	支援の段階
	6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	支援付き自律学習段階
	5	授業内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	
日本語指導	4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	個別学習支援段階
	3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	
日本語指導↑学校生活適応支援	2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	初期支援段階
	1	学校生活に必要な日本語の習得がはじまる	

＊外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント（文部科学省初等中等教育局国際教育課）から引用

２　中学校在籍中に日本語指導を受けた生徒の進路状況

「卒業前に転出（中学校在籍中に市外または国外に転出した場合）」を除き、ほとんどの生徒が日本の高等学校に進学している状況です。

（人）

卒業年度	公立（全日）	公立（定時）	私立	通信制	就職・家事	卒業前に転出	合計
Ｒ１	3	9	2	0	1	7	22
Ｒ２	2	0	4	1	1	1	9
Ｒ３	2	4	2	0	1	1	10

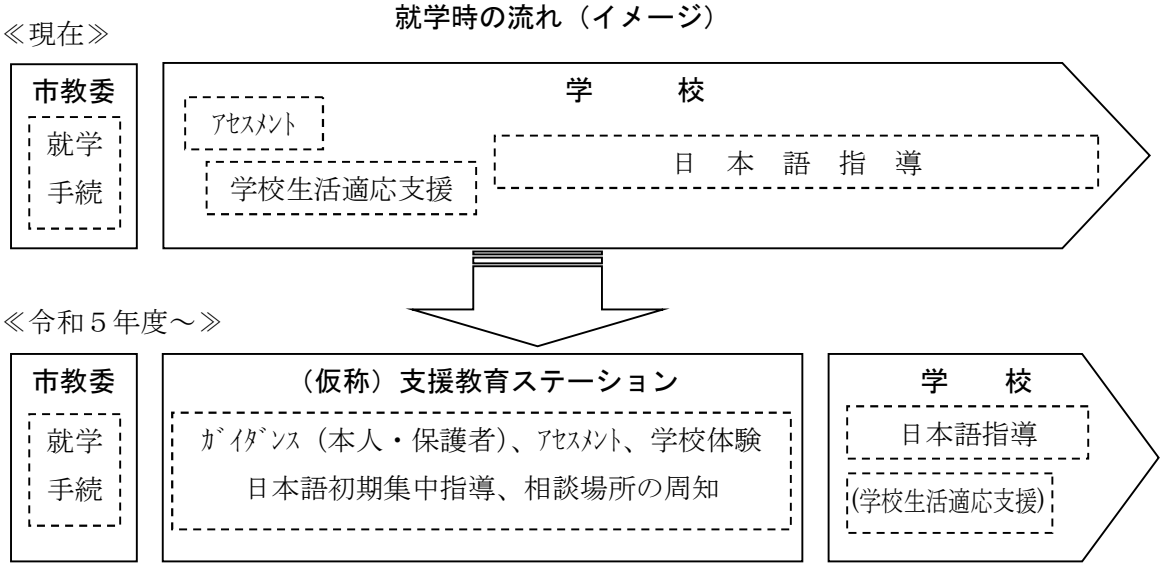
３　日本語指導等に係る課題

現在は、就学手続き後、そのまま在籍校に通学する形となっており、日本語指導等の開始までにしばらく時間がかかります。

日本語の理解だけでなく、日本の生活習慣や学校制度に対する児童生徒・保護者の理解が十分でないことが多く、受け入れる学校の負担が少なくありません。

また、児童生徒・保護者の就学に伴う不安感の軽減や、就学後の相談体制の充実が必要です。

就学時の流れ（イメージ）



４　「（仮称）支援教育ステーション」について

日本語指導を必要とする児童生徒とその保護者等を対象とした支援の拠点となる施設です。諏訪幼稚園跡地で令和５年度に設置する予定です。

国際教育コーディネーターが、日本語指導を必要とする児童生徒とその保護者に就学時ガイダンスを行うとともに、日本語の初期指導を一定期間集中的に行うことで、在籍校にスムーズに適応できるよう支援します。

また、就学から卒業までの継続的な支援も行います。

（１）主な事業内容

・国際教育コーディネーターによる就学時ガイダンス・アセスメント
・日本語初期集中指導の実施
・国際教育コーディネーターによる教育相談
・国際教育コーディネーターと指導主事による進路ガイダンス
・国際教育コーディネーターによる小学校入学前ガイダンス
・スクールソーシャルワーカーの活動拠点

（２）メリット

・児童生徒への支援に加え、保護者への支援が充実する
・児童生徒・保護者が、現在よりも短期間で日本の学校教育へ理解を深め、より安心感をもって学校生活をスタートできる
・日本語習得および学校生活への適応が早まる
・受け入れる学校の負担が軽減される
・児童生徒・保護者が、学校外で相談・面談できる場所を確保できる
・国際教育コーディネーターが常駐し、スクールソーシャルワーカーとも連携しやすくなるため、適時適切なよりよい支援につながる

【参考】　※令和４年度（Ｒ４）は９月１日現在

●日本語指導を受けた児童生徒数と特別支援学級への転籍数　（人）

	日本語指導を受けた児童生徒数				特別支援学級への転籍数		
	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	合計
H30	98	29	17	144	1	0	1
Ｒ１	93	22	12	127	5	0	5
Ｒ２	90	25	14	129	5	1	6
Ｒ３	87	29	9	125	3	1	4
（Ｒ４）	65	27	10	102	1	1	2

日本語指導を受けた児童生徒数は、コロナ禍の影響で減少がみられますが、平均して130 人以上となっています。

通常の学級から特別支援学級に転籍する児童生徒もいますが、数は多くありません。

●日本語指導を受けた児童生徒の母語言語別内訳　（人）

	英語	中国語	タガログ語	スペイン語	ポルトガル語	ネパール語	モンゴル語	他言語	合計
H30	57	14	37	12	8	5	1	10	144
Ｒ１	51	8	28	15	8	6	1	10	127
Ｒ２	56	5	33	9	9	5	3	9	129
Ｒ３	66	5	25	9	7	3	4	6	125
（Ｒ４）	48	7	21	10	4	6	2	4	102

英語が約４割を占めています。中国語は減少傾向にあり、コロナ禍の影響と考えられます。近年、モンゴル語対応が増えています。

※「他言語」の内訳は、アラビア語、韓国語、タミル語、タイ語、
シンハラ語、ビサヤ語、ミャンマー語、フェロー語、ロシア語　など

●学校生活適応支援を受けた児童生徒の母語言語別内訳　（人）

	英語	中国語	タガログ語	スペイン語	ポルトガル語	ネパール語	モンゴル語	合計
H30	8	2	0	3	0			13
Ｒ１	8	1	1	1	0			11
Ｒ２	9	1	3	2	0			15
Ｒ３	9	1	3	1	0			14
（Ｒ４）	1	1	0	0	0	0	0	2

令和４年度は、ネパール語とモンゴル語にも対応可能となりました。